



MUSASHINO^{Vol.122} *for* TOMORROW



巻頭
世界への
発信に向けて

—日本の舞台芸術のこれから—

中川俊宏(武蔵野音楽大学音楽総合学科長)

卒業生インタビュー

わたしは
バレエピアニスト

蛭崎あゆみ(新国立劇場バレエ団メインピアニスト)

表紙：江古田キャンパス プラームスホール

July 2017
vol.122

世界への発信に向けて

—日本の舞台芸術のこれから—

● 中川俊宏 (武蔵野音楽大学音楽総合学科長) ●



中川俊宏 Toshihiko Nakagawa

1952年東京生まれ。慶應義塾大学文学部卒業。早稲田大学大学院文学研究科博士課程(前期)修了。長年、国立劇場職員として伝統芸能の調査等に従事。1999年文化庁芸術文化調査官。この間2000年より武蔵野音楽大学非常勤講師。2004年国立劇場復帰。2007年武蔵野音楽大学教授。2011年本学音楽環境運営学科長。2017年本学音楽総合学科長。日本音楽芸術マネジメント学会理事。現在、国立劇場歌舞伎公演筋書にエッセイ「幕間のひととき」を連載中。

3年後にせまったオリンピック・パラリンピック東京大会。このビッグイベントは単にスポーツの祭典であるにとどまらず、実は文化振興の面からも大きな意味を持っています。大会に向けて今後ますます日本が注目されるなか、世界の人々にアピールする、日本ならではの文化について、舞台芸術に造詣の深い本学音楽総合学科長の中川俊宏先生が一文を寄せてくださいました。

2020年に向けた 舞台芸術振興

2013年に初めて1000万人に到達した訪日外国人旅行者数は、年々上昇を続け、2016年には2403万9千人を記録しました。2015年5月に閣議決定された「文化芸術の振興に関する基本的な方針」(第4次基本方針)において、2020年までに達成すべき「成果指標」として設定された2000万人を、2年目にして軽々と超えてしまったことになり、政府はすかさず目標を4000万人に引き上げました。

上記の「基本方針」には、2020年のオリンピック・パラリンピック東京大会に向けて、「文化プログラム実施に向けた機運の醸成を図る」とあり、ロンドン大会の例を挙げて、「大会の4年前である2008年から、英国のあらゆる地域で、音楽、演劇、ダンス、美術、映画、ファッション等の多角的な文化や魅力を紹介する文化プログラムが実施された」と紹介しています。

文化プログラム

スポーツの祭典であるオリンピック・パラリンピックになぜ文化事業が催されるのか疑問に感じられる方も少なくないかと思いますが、そもそも古代オリンピックはスポーツと

芸術の競技の場でありました。近代オリンピックにおいても、文化プログラムの実施は、オリンピック憲章が掲げる「基本原則」であるスポーツと文化・教育との融合という精神に基づくものであり、同憲章が開催国の義務と定めているものであります。

国は、過去最大とされるロンドン大会(2012年)の18万件弱を上回る20万件の文化プログラム実施を目標に掲げており、既に申請事業の認証を始めています。20万件の文化事業に2020年東京大会の公式イベントとしてのロゴマークが表示されることには、東京大会をお祭として盛り上げる効果は期待されますが、数値目標の達成だけが目的化されることになっては、あまりにもったいない話です。数値目標の達成は、業績評価で言われるアウトプットであり、肝心なのはそれによってもたらされた成果、即ちアウトカムです。

2020年東京大会については、大会以後に残される遺産(レガシー)についても重要視されていますが、文化プログラムについては何をレガシーとすべきなのでしょう。また、2020年を中心に、国際社会が日本という国に関心を抱いてくれることは間違いないところと思われますが、ではこのチャンスに、私たちは日本の文化を国際的にアピールすることが十分にできるのでしょうか。オリンピック・パラリンピックに限らず、好調に増加を続けるインバウンド(訪日外国人旅行者)に対して、私たちは何をアピールしていくべきなのでしょう。

コピー文化の限界

日本にしかないもの、日本でしか見られないものが、強い訴求力を持っていることは言を俟ちません。私たちが旅行をした際、国内外を問わず、

一番魅力を感じるのは、その土地の名産品や名所旧跡ではないでしょうか。舞台芸術の分野では、それはまず伝統芸能です。伝統芸能は、文化財としての固有の価値を持ち、またそのオリジナリティの点で、現代においても抜きん出た地位を確保していますが、同時に伝統芸能の各分野は、普及事業にも積極的に取り組んでおり、外国人を対象としたさまざまなアウトリーチ活動が展開されています。

では、現代舞台芸術と称される音楽・演劇・舞踊などは、どのように国際的なマーケットにおいて魅力を高めていったらよいのでしょうか。演劇は、言語を介した芸術であるため、日本の創作劇としての歴史を積み重ねてきていますが、その一方、翻訳劇の領域においても、独自の演出によって国際的に評価されるプロダクションも制作されてきました。一方、音楽や舞踊はと言いますと、演劇の創作戯曲に相当するほどの創作作品の積み重ねは見られないかもしれませんが、独自の演出や解釈による海外作品の再創造も十分とは言えないように思われます。

総じて、クラシック音楽やクラシック・バレエなどは、明治以来の外来文化として、その本格を重んじ、その神髄に迫ることを唯一の道と信じるあまり、日本の作品、自分たちの作品としてのオリジナリティを追求することなどは初めから考えてもこなかった、というのが従来の歴史であったと思います。

器用な日本人は精巧なコピーを作ることができますが、当然のことながら、そこにオリジナリティはありません。コピーとしては優れているため、国内的には大いに有用なものではあります。例えば、海外まで出かけるなくても、ブロードウェイ（ニューヨーク）やウェストエンド（ロンドン）の劇場で上演されている舞台に



▲ 国立劇場『Discover KABUKI- 外国人のための歌舞伎鑑賞教室 -』平成28年6月 写真提供：国立劇場

引けを取らないようなミュージカルが、しかも日本語で上演されています。しかし、海外からの旅行者がそれを観に行くことは、まず考えられません。コピーには残念ながら国際的なマーケットにおける訴求力はありません。どれほど精巧に作り込まれていたとしても、コピーは所詮コピーであり、本物を超えることはできないのです。

アレンジの日本文化

このように書いてきますと、筆者はコピーを無価値と斬り捨てているように思われるかもしれませんが、断じてそのような考えではありません。私が武蔵野音楽大学で担当している科目「文化史」の中でも伝えているところですが、文化史的には、外来文化の巧みなコピーと優れた日本文化こそ日本文化の特質と言ってもよいものなのであります。

私たちになじみのある食べ物を例に考えてみましょう。パンは言うまでもなく文明開化とともに広まった食品ですが、これに餡を入れてあんパンというものを拵えたのは、銀座木村屋総本店の創業者でした。酒饅頭の製法を参考に作られたそれは、やがて塩漬けの桜まで練り込んで、世界に類を見ないパンが誕生したわけですが、そもそも饅頭の製法は中国から伝来したものでした。

同様の例は枚挙にいとまがありません。例えばカレーうどん、明太子スバゲティ、抹茶アイスクリーム…。カレーとラーメンは今や日本の国民食と言われていますが、どちらもわが国において独自の発展を遂げたものです。カツカレー、みそラーメンにとんこつラーメン…。そう言えば蕎麦も饅頭もルーツは中国にあります。日本文化の象徴のように思われている茶の湯も、実は中国から伝来した文化ですし、華道も香道も、その源流は仏教とともに伝えられたものでした。

しかし、海外から摂取した文化に自分たちを合わせるのではなく、自分たちに合わせてアレンジしていく柔軟にして力強い応用力、これこそが私たちの文化受容の伝統的なあり方であると言ってよいのではないかと思います。私たちの祖先は、外来文字である漢字に大和ことばの訓（よ）みをあたえ、また仏教のような外来の宗教までも、神道と習合させて日本の宗教に仕立て直してしまうという大胆極まりないアレンジをやっていたのでした。

オリジナリティの希求

今日も多く日本人ファッション・デザイナーが国際的に活躍していますが、その先駆者とも言うべき森英恵・高田賢三・三宅一生らの創り出し



▲ 柴田南雄生誕100年・没後20年記念演奏会《ゆく河の流れは絶えずして》(同実行委員会主催) 平成28年11月
本学合唱団も出演

たファッションには、東洋的なセンスが、そのデザイン・色彩・素材などに生かされています。それらはさりげなくアレンジされているがゆえに、オリジナリティが煌く作品となって、称賛を集めたものと思われます。

翻って、今日のわが国の舞台芸術の世界はどうでありましょうか。音楽・演劇・舞踊など、どの分野にも優れた才能に恵まれたアーティストは続々と育ってきています。また、高度な機能を備えた上演施設も全国的に

整備されております。では、上演されている現代舞台芸術の狙っている基準はどこに合わせられているのでしょうか。コピーの段階で満足しているものが多くを占めていることはないのでしょうか。国際的な訴求力を備えたオリジナリティの認められる作品は生み出されているのでしょうか。

科学技術と舞台芸術

今日、国際的な認知度において、日

本の看板となっているのは、アニメなどに代表されるメディア芸術ではないでしょうか。平成28年11月に文化審議会が答申した「文化芸術立国の実現を加速する文化政策―『新・文化庁』を目指す機能強化と2020年以降への遺産(レガシー)創出に向けた緊急提言―」にも、「映画、漫画、アニメ、ゲーム等のメディア芸術にとどまらず、ポップカルチャー、街角で若者たちの感性から生み出される流行など新しい文化芸術の萌芽について、必要な環境整備や支援の戸を開くことが重要である」とあるように、海外からクールジャパンと持て囃されるこの分野の振興は、国の文化政策においても重要な柱となりつつあります。

初音ミクと歌舞伎俳優のコラボレーションに代表されるような、先端的なメディア芸術を舞台芸術分野に導入する試みは、おそらく今後ま

❖❖❖❖❖❖ 音楽学部新人演奏会 ～平成28年度卒業生による～ ❖❖❖❖❖❖

平成29年4月24日 ヤマハホール



大久保慧亮(打楽器)



阿部華苗(ホルン)



中川千尋(ピアノ)



三谷真珠子(ハープ)



金田直道(ファゴット)



森 万佑子(メゾ・ソプラノ)



馬場翔太郎(ピアノ)

すまずさかに行われることと予想されます。前掲の「緊急提言」には、「文化芸術の創造、継承、普及やマネジメント等全般において、（中略）多様な科学技術の活用を進めることは、文化芸術の新たな可能性の拡大に有意義である」ともあり、科学技術と舞台芸術の幸福な未来が約束されているかのようです。

人工知能（AI）がプロの棋士を破る時代。いずれパガニーニやリストの難曲を楽々と弾きこなすロボットも登場するかもしれません。私たちはロボットの演奏に感動できるでしょうか。できるかもしれませんし、できないかもしれません。

話が少々横道に反れてしまいましたが、少なくとも今世紀中はおそらくまだ、舞台芸術の醍醐味は、アーティストという生身の人間と観客が同じ空間を共有するところ、言い換えるならライブ感にあると言って間

違いないのではないのでしょうか。そして私たち観客は、アーティストが、人間らしい創造の営みを積み重ねた上で、人間を超えた何かを私たちの眼前に提示しえた瞬間、感動を覚えるのではないのでしょうか。

新たな地平を 切り拓くために

筆者は現在、独立行政法人日本芸術文化振興会基金部における舞踊分野のプログラムディレクターとして、



▲ スターダンサーズ・バレエ団 バレエ《ドラゴンクエスト》
（すぎやまこういち音楽、鈴木稔演出・振付）平成29年5月

撮影：長谷川清徳

❖ ❖ ❖ ❖ 大学院修士課程新人演奏会 ～平成28年度修了生による～ ❖ ❖ ❖ ❖

平成29年5月10日 ブラームスホール(江古田キャンパス)



松澤美希(マリンバ)



島田 明(フルート)



山下咲月(ハープ)



池田瑛香(ソプラノ)



飯田 茜(ピアノ)

民間芸術団体の実施する公演活動への助成事業を担当しています。この仕事に携わって感じることは、高額な著作権料を支払って海外の優れた作品のコピーを作ることが日本のパ

リエ団の仕事と認識している団体が多いのではないかと。もちろん優れた作品の紹介は大事な役割であり、それを上演することによってダンサーが学ぶことも多いことと思います。しかし、いつまでもそこに留まっていてよいのでしょうか。

平安貴族の美意識が、アジアの芸能であった雅楽を日本化したように、日本人の感性や美意識を生かしたオリジナルの現代舞台芸術の創作が待たれているように思います。しかし、それは、単に日本に題材を求める作品というような短絡的な発想ではなく、また日本の伝統的なデザインを取り入れるという表層的なジャポニズムでもなく、日本人の感性や美意識が巧まずして滲み出ているような作品であるべきかと思っています。日本らしさを意識することなく創作しても、海外の目はそこに日本的な何かを見出すはずです。敢えて言うなら、外国人の演出家や振付家が日本の芸

術団体のために新制作として提供する作品であっても、その制作の過程において、自ずと日本的なオリジナリティは表出されてくることと思います。

国の文化政策としても、従来の舞台芸術の創造活動への助成システムの中に、オリジナル性の高い作品創造を戦略的に支援していく助成プログラムを一定の枠組みにおいて確保していくべきではないでしょうか。前掲の「緊急提言」にも、「世界に誇れるトップクラスの文化芸術を創造すべきである」とありますが、「世界に誇れる」作品とは、コピーではなく、オリジナリティの認められる作品でなければなりません。2020年東京大会を契機として、国際的に評価されるオリジナリティの高い作品作りを推進し、それを以て遺産（レガシー）とすべきであると思います。



撮影：谷古宇正彦

▲ 世田谷パブリックシアター《ハムレット》
(ジョナサン・ケント演出、野村萬斎主演)
平成15年6月

音楽の万華鏡 38

音楽を考える

音楽を考えること、つまり近代の音楽学の源は、古代ギリシャに見られる。そしてギリシャの音楽観はローマへ伝えられ、中世には「音楽」は大学の教養科目である自由学芸の一つとして講じられた。

古代ギリシャでは音楽の本質が論じられ、哲学者プラトンは著作『国家』の中で、国家の統治にあたっては若者に適切な音楽が与えられるべきであることを強調した。一方、ギリシャの音楽理論の基礎を築いたピュタゴラスは、音楽と数は密接な関係にあり、数によって秩序付けられた音楽の音やリズムの組織は、宇宙の調和を示すものであると考えた。ローマのポエティウス(480頃-524)は『音楽教程』を著し、ピュタゴラスの流れを汲むニコマコスの

『音楽論』などのギリシャの原典をラテン語で編纂、ギリシャの音楽思想をローマに伝えた。この中で、ポエティウスは音楽を天体の運動を通じて引き起こされる「ムシカ・ムンダーナ」(宇宙の音楽)、人間の精神と肉体の調和である「ムシカ・フマーナ」(人間の音楽)、人の声を含む楽器の作り出す「ムシカ・インストルメンターリス」(道具の音楽)の3種に分けた。

10世紀になると、この著作は盛んに書き写され、中世の大学における自由学芸の最も重要な教科書として広く読まれ、中世とルネサンスの音楽に多大な影響を与えた。今日ヨーロッパ各地の図書館に伝えられている12世紀に由来する羊皮紙の写本には、ポエティウスの本文に添えて、色鮮やかな線画が書き込まれている。ケンブリッジ大学図書館所蔵の写本に書き込まれたこの線画では、下段にプラトン(左)とニコマコス(右)が尊敬すべき音楽論の権威として描かれている。上段のポエティウス(左)はモノコルド(一弦琴)で、ピュタ



ゴラス(右)はハンマーで鐘を叩き、よく響きあう協和音程を計測している。ピュタゴラスについて、ポエティウスはこの著作の中で、鍛冶屋の仕事場を通りかかった際に、職人たちの打ち下ろす槌の響きの中に協和音程を聞き取った逸話を伝えている。

寺本まり子(本学音楽学特任教授)

卒業生インタビュー

わたしはバレエピアニスト

● 蛭崎あゆみ ●

(新国立劇場バレエ団メインピアニスト)

バレエピアニスト、という職業をご存知でしょうか？ 仕事の内容は単に踊りの伴奏をするというレベルにとどまらず、ダンサーと切磋琢磨し、スタッフと協力し、パフォーマンスを高めていくという大切な役割を担っています。その日本における第一人者が、武蔵野出身の蛭崎あゆみさん。江古田新キャンパスにお招きして、バレエピアニストという仕事の奥深さ、やり甲斐などについて伺いました。

(2017年5月10日インタビュー)



蛭崎あゆみ Ayumi Hirasaki

武蔵野音楽大学ピアノ専攻卒業。在学2、3年次福井直秋記念奨学金奨学生。ピアノを鈴木洋、志村直子、ベラ・シキ、ピエトロ・ガリに師事。2004年バリオペラ座バレエピアニストコンクールに入賞。2006年文化庁在外研修員としてウィーン国立オペラ座にて研鑽を積む。現在、新国立劇場バレエ団専属ピアニスト。NHK教育テレビ「吉田都のスーパーバレエレッスン」ではピアニストを務めた。

クラスピアニストと リハーサルピアニスト

—— 最初に、バレエピアニストはどんな仕事なのか教えてください。

蛭崎 大きく分けて、バレエピアニストには二つの職種があります。クラシックバレエのプロのダンサーは、午前中に1時間半ほどのトレーニングを毎日行いますが、それに合わせてピアノを弾く仕事、それをレッスンピアニスト、あるいはクラスピアニストと呼びます。もう一つ、公演のためのリハーサルを通常午後に行いますが、その演目を弾く仕事、それをリハーサルピアニストと呼びます。どちらかを専門にやる方が多いのですが、私は現在、新国立劇場のバレエ団に所属して午前のクラス、午後のリハーサルの両方を受け持っています。

—— 音楽面でのクラスピアニスト、リハーサルピアニストの違いは？

蛭崎 クラスピアニストの場合、既存の曲でも、即興でも、弾く曲は何でも構いません。先生の指示する動きに合ってさえいれば何でもよく、センスが問われます。既存の曲を弾くなら何百曲も頭に入っていないといけませんし、中には大量の楽譜を持ち込む人もいます。午後のリハーサルピアニストは演目を弾ければいいわけですが、音楽的に責任のある仕事を任されるケースも多く、ピアニストとしてのテクニック、技量がより求められます。



▲ 江古田新キャンパス リストプラザにて

—— バレエピアニストとして普段、どのような練習、準備をしていますか？

蛭崎 クラスの即興に関しては、部屋で一人でやってもなかなか上達しません。やはり人前で緊張しながら弾くのが、一番鍛えられます。リハーサルの方は、オーケストラの曲のピアノ譜が出ている場合もありますが、そのピアノスコアの全てが正しいとは限りません。楽譜に書いてある音とダンサーが聴きたい音が違うことがあるんです。ですから、まず楽譜の検証から始めます。この音を拾おう、この音を消そう、この音を書き足そうとか。それをベースに練習を重ねて、どんなテンポでも弾けるようにしておきます。

パリ、ウィーンでの研鑽

—— バレエピアニストになろうと思ったきっかけは？

蛭崎 ピアノは3才、バレエも4才くらいから始めましたが、バレエピア



ニストという存在を知ったのは大人になってから。武蔵野を卒業するという時期に、あるバレエ団がバレエピアニストを募集しているのを知り、応募したのがきっかけです。その話は結局なくなりましたが、その後、色々なバレエ団で弾いているうちに新国立劇場のクラスの仕事をしていただけることになりました。そして徐々にこの仕事の面白味が分かってきて、本場でさらに研鑽を積みみたいと思うようになりました。

—— 最初はパリに行くわけですね。

蛭崎 若さもあったんでしょね、自分の力を試してみたくて何のツテもなく行きました。当然最初は全く

仕事がなく、飛び込みで小さなバレエ団を訪問したり、そうこうしているうちにあちこちで弾かせてもらえるようになりました。しかも幸運なことにパリに来て数ヶ月で、パリ・オペラ座の欠員を埋めるためのバレエピアニスト・コンクールが開かれることになり、参加したら入賞しました。パリではバレエが文化として根付いていて、踊りを楽しむ一般の人も多くいます。彼らの踊りに合わせて弾いたことも、良い思い出です。

一時帰国した後、次は文化庁の在外研修員としてウィーン国立オペラ座に行きました。バレエピアニストが研修員に選ばれるのは、初めてだったようです。バレエと音楽は常に衝突するもの。その衝突を、本場のオーケストラはどのように対処するのかを見たくて、ウィーンを選びました。4ヶ月間研修し、研修が終わる頃には就職のオファーをいただきました。でも、パリ、ウィーンでの経験から自分がバレエピアニストとしてどこでも通用するという自信が持てましたし、今後は私の経験や知識を日本で活かし、日本のバレエの発展に貢献したいと思うようになりました。

した。そこでオファーをお断りして、帰国しました。

美しい足は僕たちが作る

—— ウィーン時代、著名なバレエピアニストから素敵な言葉をいただいたそうですね。

蛭崎 「バレエピアニストという仕事がどれほど大切なものか、それはダンサーが一番分かっている。彼らの美しい足は僕たちが作っているんだ」というもの。この仕事は日本では認知度が低く、ピアニストとしては二流の仕事だと見られたりして、やる価値があるのか悩むこともあったので、とても勇気づけられました。誇りを持って取り組める仕事だと思えるようになりました。

—— バレエピアニストに求められる資質、能力は？

蛭崎 コミュニケーション能力は必要だと思います。ソロで弾くのは違って、クラスならダンサーと教師がいます。常に三者間でコミュニケーションを取りながら弾かないといけません。リハーサルでは、さらに指揮者も加わります。自分の演奏を高めるのは当然のことですが、と同時に全体を良くするためにどうすべきか、場の空気を読むことも大切です。そう考えると、この仕事は実は日本人に向いているんじゃないでしょうか。現に、世界的に見ても日本のバレエピアニストのレベルはかなり高いと言えます。武蔵野出身のバレエピアニストも多いですよ。新国立にも有望な後輩がいます。

—— 英国ロイヤル・バレエ団でプリンシパルを務めた吉田都さんとも共演されていますね。

蛭崎 都さんがイギリスから帰ってきて初めてご一緒させていただいた



▲ 新国立劇場ピット内にて、『眠りの森の美女』ピアノ舞台稽古の様子



▲ プーランクのピアノコンチェルトを弾いた公演でダンサーと(2016年)

のが、NHKの「吉田都のスーパーバレエレッスン」。それ以来の長い付き合いで信頼関係もでき、最近では事前に打ち合わせすることはほとんどありません。こうして欲しいんだらうなど推測して弾くと、都さんから「踊りやすかったです！」なんて言ってもらえて(笑)。

若いエネルギーに期待

—— 武蔵野音楽大学時代を振り返って、一番思い出すことは？

蛭崎 学生生活は、一言でいって忙しかったですね。週1回の先生のピアノのレッスンとその準備、趣味で続いていたバレエのレッスン、室内楽、アルバイト…。とにかく走り回っていた印象があります。友人にも恵まれました。みんな優秀で、刺激を受けながら大きく成長できた気がします。師事した先生方も素晴らしく、中でもベラ・シキ先生はとても温かなお人柄で、レッスン面でも充実した大学時代でした。

—— 旧キャンパスの思い出、新キャンパスについてのご感想を。

蛭崎 実は私の祖父は武蔵野でピアノの教授をしていました。母も武蔵野の出身ですし、私は音楽教室にも通っていて、3世代にわたり古い校舎にはお世話になりました。大好きで

懐かしく、取り壊される前に母と来て写真を撮りました。新校舎は、まさに夢のよう。さきほど校内を回ったら旧校舎のスタンドグラスが移設されていて、母が見たらきっと喜ぶでしょう。

—— 武蔵野で経験したことで、いま役に立っていることは？

蛭崎 高校までは、先生から与えられたものをやるという形でしか音楽をやってきましたでした。でも武蔵野では学生同士が自発的にアンサンブルをすることが多く、人と合わせる楽しさを知ったことは良い経験でした。音楽とダンサーとスタッフが一緒に一つの作品を作り上げるバレエの面白さも、アンサンブルに通じるように思います。

—— 武蔵野の後輩たちへのメッセージをお願いします。

蛭崎 与えてもらった4年間という贅沢な時間と、この恵ま

れた環境を最大限に有効に使ってもらいたいですね。若いピアニストを指導して、若者の持つエネルギーのすごさを感じます。皆さんもそのエネルギーがあるうちに、色々な方面で色々なことを試して欲しい。貴重な4年間を無駄にしないでください。将来どんな仕事に就くにせよ、辛くても諦めずに努力する、そしてその努力を当たり前にする、それが成功する秘訣なんだと思います。

—— 最後に、蛭崎さんのこれからの夢をお聞かせください。

蛭崎 本場を知っているバレエ界のピアニストとして、日本のバレエ界をもっと盛り上げていきたい。法律の違いなども含めヨーロッパと同じように運営するのは難しいでしょうが、日本に合った形でバレエが発展していけるようにお手伝いできたらと思っています。



▲ 江古田新キャンパス 図書館にて

斬新なデザイン & 最新の音響設計 ブルームス ホール

(文：福井直昭 副学長)

今号よりスタートした新企画「江古田新キャンパス探訪」。魅力あふれる新キャンパスをより深く知り、有意義に活用してもらえよう、建物・施設ごとの特徴や設計コンセプト等を随時紹介してゆきます。案内役は、江古田新キャンパスプロジェクトのプロジェクトリーダーを務めた本学の福井直昭副学長。第1回目となる今回は、新キャンパスが誇るコンサートホールであるブルームスホールにスポットを当てました。

現代の最新音響技術を用い 第一義的に音響面を追及

企画段階より、我々には「このホールを当代随一の中ホールにしたい」という思いがありました。したがって第一義的に音響面を追及するため、新キャンパス全体を担当した(株)大林組の設計施工のもと、世界的な建築音響コンサルタントである(株)永田音響設計に、基本設計段階から施工段階の音響監理、ならびに完成後の音響検査測定までの一連の音響コンサルティ



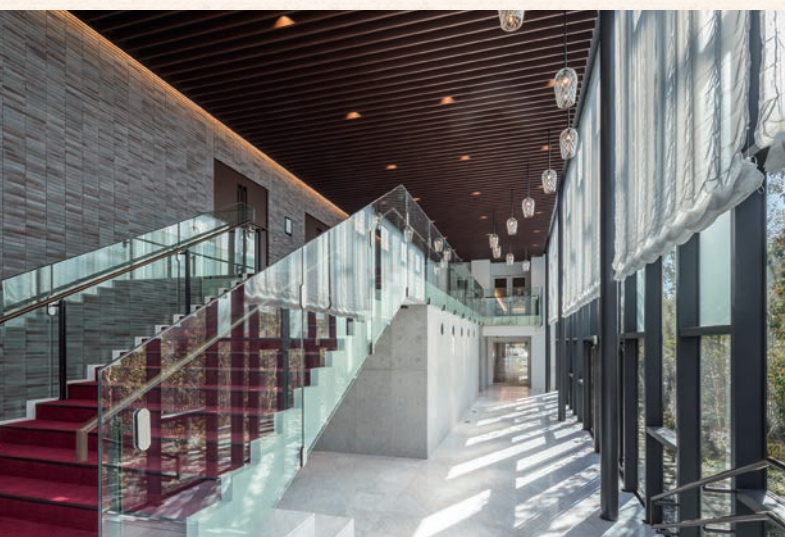
▲ ゆとりある空間設計と印象的な天井デザイン

ング業務を依頼しました。客席数は423席で、客席にはステージと一体感のあるワンスロープ形式を採用し、観やすい、聴きやすい設計となっています。この基本コンセプトも最初に大林組にお願いしたことの一つです。

近代的な印象の天井と壁面デザイン

近隣への日影の条件により容易ではなかったのですが、豊かな響きを得るため天井高を可能な限り高く確保しました。その結果、室容積は約6000m³(1席あたり約14m³)で、クラシックコンサートの生音の演奏に対して充分大きな室容積が実現しています。天井は最高点で約14.5mの高さで、そこを頂点としてステージ正面、客席後壁、側壁に向かってなだらかに低くなっており、4つの大きな三角形が組み合わせられたような形状となっています。天井のジョイント部分や側壁の最上部に設けられた間接照明で照らされた天井は、印象的ではないでしょうか。

側壁は最適な音響を実現するために上部にいくにしたがって広がっており、そこにステージと客席に初期反射音を到達させる音響的に有効な反射面を設けました。この側壁、および客席・ステージ後壁は、木の練り付け材、木リブ



▲ 演奏会への期待感を高める開放感あふれるホワイエ



▲ タイル張りのホール部分（奥）とガラス張りのハワイエ（手前）
ベートーヴェンホール（右）との調和も美しい

材、御影石、大谷石、磁器質タイル、ガラスといった音響特性が異なる様々な材料を組み合わせでデザインされており、来場者に現代的な印象を与えます。しかしその雰囲気は決して音楽を聴くための落ち着きを失っておりません。

旧キャンパスのレガシーとの「和」

ホールの外装（ガラス窓）には、隣接するベートーヴェンホール外壁の穴あきブロックの格子状のデザインパターンを相似のプロポーションで踏襲し、歴史と現代性を同時に表現した結果、プロジェクトの基本コンセプト「伝統と先進の和」を表象する、外観におけるベートーヴェンホールとの興味深い連続性も創出されました。



▲ 旧校舎から移設したクリスタル照明の明かりがぬくもりを演出

開放的でダイナミックな空間のハワイエは、床は大理石張りで、レッドカーペット敷きの大階段が設えられ、新キャンパス全体に広がる特注タイルがここの壁面にも使用されています。また昭和35年に初代モーツァルトホールとして誕生し、その後楽器陳列室、大講義室として親しまれてきた旧校舎447室のクリスタル照明を、本学の伝統の象徴として再設置し、近代的な雰囲気のホテルエ中に調和させました。

演奏者と聴衆のドラマティックな一体感

完成後の残響時間は、当初のターゲット通りの空席時1.9秒(500Hz)となりました。実際の演奏を聴くと、豊潤かつ繊細で緻密な響きがどの席からも得られており、大林組と永田音響設計に何度もシミュレーションデータによる設計のトライ＆エラーを繰り返していただいた甲斐があったと感じました。演奏者と聴衆のドラマティックな一体感を生み出すこのホールから、また新しい武蔵野の歴史がスタートすると思うとわくわくします。



▲ 様々な素材で構成され、音響効果も高い壁面

新キャンパスを舞台に多彩な調べ

✧ブラームスホール竣工記念

木管室内楽の夕べ

去る4月17日、江古田新キャンパスのブラームスホール竣工記念特別演奏会として、本学教員による「木管室内楽の夕べ」が開催されました。

出演者は、国内外の著名オーケストラで首席奏者を務めるなど豊富な演奏経験を持つ、本学が誇る豪華な顔ぶれ。(フルート：白尾 隆、オーボエ：北島 章、青山聖樹、クラリネット：山本正治、三倉麻実、ファゴット：岡崎耕治、吉田 将、山田知史、ホルン：山本 真、丸山 勉)

ブラームスホールは、世界的な建築音響コンサルタント永田音響設計が監修、大林組が設計施工を行った423席の中ホールで、木や石、タイルやガラスといった異なる音響特性をもつ素材を組み合わせた珍しいデザ

イン。当日は、新キャンパスと、新しいホールへの期待を胸に多くの方が訪れ、その斬新なデザインに感嘆の声があがりました。〈ホールの詳細については、本誌 P9・10をご覧ください〉

演奏会は、モーツァルト「セレナー第11番」で格調高く幕を開け、続く川辺 真(本学作曲講師)作の「森のささやき」ではホールの響きを堪能し、フィナーレにベートーヴェン「交響曲 第7番 (HARMONIEMUSIK版)」を華やかに聴かせました。

メンバーの卓越したテクニックによる、色彩豊かな音色、調和した美しいアンサンブルで室内楽の醍醐味を余すところなく披露し、満員の聴衆から万雷の拍手をいただき、新しいホールのお披露目にふさわしい素晴らしい演奏会となりました。



ダルマン氏は、ベルリン交響楽団(現ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団)で、22年以上にわたり首席ホルン奏者を務め、現在はベルリン芸術大学教授として、優れたホルン奏者を多数育てています。今年5月、初めて本学が招聘し、学生の指導に当たっていただきました。マスタークラスには本学学生を始め多くの管楽器奏者が集い、教授の説明に熱心に耳を傾けていました。

✧同窓会主催新人演奏会

平成28年度卒業生による「武蔵野音楽大学音楽学部新人演奏会」が4月24日ヤマハホールで、さらに平成28年度修了生による「武蔵野音楽大学大学院修士課程新人演奏会」が5月10日に本学ブラームスホールで開催され、これまでの集大成として研鑽の成果を立派に発表しました。

【写真：P3・4】



✧クリスチャン・フリードリッヒ・ダルマン (ホルン) マスタークラス開催

5月27日、武蔵野音楽大学オーケストラホールで、本学客員教授クリスチャン・フリードリッヒ・ダルマン氏のマスタークラスが開催されました。(日本ホルン協会、本学共催)

大学院にピアノコラボレイティヴアーツコース開設

平成30年4月、大学院修士課程にピアノコラボレイティヴアーツ(ピアノ総合合奏技法)コースを開設します。

ピアノコラボレイティヴアーツとは、単なる伴奏ではなく、共演する声楽家、器楽奏者、あるいは弦楽四重奏や合唱団などのアンサンブルと、共に音楽を創り出していくアーティスト、すなわちコラボレイティヴピアニ

ストを養成する新しいコースです。経験豊かな講師陣が器楽・声楽・オペラとそれぞれの得意分野を体系的、実践的に幅広く指導し、その成果を江古田新キャンパスのモーツァルトホールで定期的に発表して舞台経験を積み重ねていきます。

そして、コンサートのみならず、社会的ニーズも高く活躍の場も多いリート、室内楽、合唱などの分野にお

けるマスタークラス、講習会、音楽祭、コンクールの公式伴奏などの演奏活動や、オペラ制作、オペラ研修所におけるコレペティートアのプロフェッショナルを目指します。

あなたも、共に音楽をする喜びを味わい、未知で広大な世界にチャレンジしてみませんか。(詳細は、平成30年度 大学院音楽研究科入学試験要項をご覧ください)

様々な行事に活気あふれた学園の春

春の訪れとともに武蔵野音楽大学、同附属高等学校、附属各幼稚園では、それぞれ平成29年度の学事が順調に始まりました。

竣工したばかりの真新しい江古田新キャンパスは、希望にあふれる新入生、さらに新キャンパスで学ぶことへの期待を胸にした在学学生でにぎわい、活気に満ちた雰囲気の中、新学期がスタートしました。

大学恒例の新入生歓迎会では、学友会の紹介のほか、先輩学生らが所属する各クラブの活動内容を趣向を凝らしPR。新入生は熱心に耳を傾けてい

ました。

附属高校では、5月、色鮮やかにつつじが満開の入間キャンパスで、体育祭が開催されました①。種目は、リレー・綱引き・しっぽとり・パン食いラムネ競争など多種多様。熱戦の末、3年生が見事優勝し有終の美を飾りました。また、5月下旬には、2年生が3泊4日の修学旅行を行いました。広島では平和学習として「被爆ピアノ」に触れ、ピアノ連弾と全員合唱をする機会を得ました。神戸では、人と未来防災センター、六甲オルゴールミュージアム、北野異人館街を巡り、昼食は豪華にランチクルーズ②。京都では雅楽の鑑賞と体験を行いました。さらにユニバーサル・スタジオ・ジャパンも訪れ、高校生活の思い出に残る充実した旅行となりました。一方、1・3年生は名栗川上流のせせらぎキャンプ場にて、校外学習（飯盒炊爨）を実施。それぞれ工夫を凝らした手料理を楽しんだり、清流で川遊びをしたり、大いに自然に親しみました。



3つの附属幼稚園では、園児たちが自然豊かな公園や遊園地へ、春の遠足に出かけました。爽やかな五月晴れのもと、お父さんお母さんやお友だちと一緒に思いきり体を動かした後は、みんなで仲良くランチタイム。園児たちの笑顔がはじける楽しい一日となりました③。



好評のキャンパスレストラン“Intermezzo”にフレンチの鉄人・坂井宏行シェフ来場！

4月から本学江古田新キャンパスがオープンし、すべてがリフレッシュした環境での新しい学園生活も徐々に軌道に乗ってきました。そんな新キャンパスで日々活況を呈しているのが、有名レストラン「銀座スエヒロ」が運営を手掛けるキャンパスレストラン“Intermezzo”。スエヒロならではのハイクオリティな美味しいメニューは、利用する学生、教職員に大変好評です。

去る5月10日、この“Intermezzo”に、フレンチの鉄人として有名な、フレンチレストラン「ラ・ロシェル」の

オーナーシェフ・坂井宏行氏が来場。ご自身が監修したこの日だけの特別メニュー「ラ・ロシェル風ビーフストロガノフ」を自ら提供して、その際、気さくに記念撮影にも応じてくれました。当日用意された特別メニューは限定200食。運良くこれを味わうことができた皆さんは、一流レストランの本格的な料理に舌鼓を打ちました。

今回の企画は、坂井シェフがスエヒロのメニューの監修・調理指導等を行っている縁で実現したものの。“Intermezzo”では今後も通常

メニューに加え、期間限定の特別メニューを随時展開していくそうです。どんな味に出会えるのか、お昼の楽しみがまた一つ増えました。





武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金 ご寄附をいただいた方々

学校法人武蔵野音楽学園では、寄附金に対する税額控除制度の恩典が与えられたことに鑑み、教育環境整備基金、福井直秋記念奨学基金並びに演奏活動特別基金の拡充を目的とする寄附金を募集しましたところ、下記の方々よりご寄附をいただきました。ここにご芳名を掲載し、深く感謝の意を表します。

学校法人 武蔵野音楽学園

※ご芳名（五十音順）は、平成29年2月16日から5月20日までにご寄附いただいた方々です。それ以降の方々は、次号にて掲載させていただきます。また勝手ながら掲載区分は当方で決めさせていただきました。何とぞご了承ください。

※本学ウェブサイトからも、ご寄附いただけるようになりました。クレジットカード決済により簡単に手続きができます。是非ご利用ください。

【同窓生】 Asako T.Brummitt 様 伊藤征夫様 大貫美鈴様 小澤隆朗様 川口俊子様 川辺宣子様 鈴木明美様 鈴木晴美様 橋爪正子様 濱 満様 深谷陽子様 山崎豊子様 山田貴美子様 昭和58年入学生卒業30周年同期会様 同窓会広島県支部様 同窓会宮崎県支部様

【在学生・同ご父母】 明石邦彦様 東 裕司様 上田公一様 岡部行伸様 川島 武様 木村 学様 栗田芳一様 嶋田雅之様 須田 昇様 竹原成実様 露木賢治様 寺崎敬子様 増田幸二様 山崎 彰様 横山三郎様 渡辺幸栄様

【役員・教職員・一般・他】 阿久津三智子様 飯笹久美子様 石川 篤様 上村英郷様 大槻恵司様 大坪由里様 奥田 操様 岸田 譲様 黒木章子様 小池ちとせ様 小林五郎様 小林秀夫様 薦田治子様 佐伯真弥子様 佐橋美起様 澤田圭子様 鈴木祥子様 戸部 豊様 林 孝治様 原田知子様 平山百合子様 廣瀬鐵雄様 福井直敬様 福本とし恵様 藤野ミチコ様 前川慎一郎様 増崎靖子様 三木由美様 箕田幸朗様 村上直行様 森田恭子様 吉岡成夫様

（他に匿名を希望される方13名）

栄冠おめでとう！（コンクール入賞者等）

- 第27回バルレッタ市若い音楽家のための国際コンクール(イタリア) (順不同、敬称略、経歴は受賞時のもの)
ピアノ部門 カテゴリーG 第1位入賞 小島加奈子(平成22年大学ピアノ専攻卒業、本大学院修了)
- RICO 9th Annual Collegiate Vocal Solo Competition 2016 (アメリカ) 優勝
谷口万穂子(平成24年大学声楽専攻卒業)
- 第1回レガネス国際ピアノコンクール(スペイン) シニア部門 第2位入賞
奥村奈々(平成25年大学ピアノ専攻卒業、本大学院修了)
- 国際チューバ・ユーフォニアム・カンファレンス・オブ・ザ・ロッキーズ
アーティスト・ユーフォニアム・ソロ・コンペティション(アメリカ) 第2位入賞
阿部絵梨香(平成20年大学ユーフォニアム専攻卒業)
- 平成29年度奏楽堂日本歌曲コンクール 第24回作曲部門 第2位入賞、中田喜直賞、畑中良輔賞受賞
小田実結子(平成28年大学作曲専攻卒業、本大学院2年)
- 第19回“万里の長城杯”国際音楽コンクール ピアノ部門 大学の部 第3位入賞
藤井千裕(大学4年ピアノ専攻)

※上記の他多数。大学ウェブサイトをご覧ください。

平成29年度 武蔵野音楽大学 オープンキャンパス・学校説明会

武蔵野音楽大学音楽学部や附属高等学校音楽科への進学を検討している皆さん、並びに、指導者、保護者、ご家族、卒業生の皆様を対象に、オープンキャンパス、学校説明会を開催します！

★の開催日は、附属高等学校の説明会も実施します。

※事前申し込みが必要です。

詳細につきましては、本学ウェブサイトをご覧ください。

【お問合せ】武蔵野音楽大学入学センター TEL.03-3992-2500

E-mail:nyugaku-c@musashino-music.ac.jp

日付	種別	開催地
7月16日①	オープンキャンパス (レッスン公開)	江古田キャンパス
8月27日①★	オープンキャンパス (ワンポイントレッスン)	江古田キャンパス
9月24日①	学校説明会	宮崎県宮崎市 「宮崎市民文化ホール」
10月 9日(再・祝)	オープンキャンパス (授業・レッスン公開)	江古田キャンパス
12月10日①	オープンキャンパス (レッスン公開)	江古田キャンパス

平成29年度 武蔵野音楽大学 同窓会全国総会のお知らせ

平成29年度武蔵野音楽大学同窓会全国総会は、来る8月8日①、武蔵野音楽大学江古田新キャンパスにて開催されます。本年春に新しく生まれ変わった学び舎に集い、旧交を温め、楽しいひとときをお過ごしください。皆様のご出席をお待ちしています。

平成 29 年度 7 月～9 月 演奏会のお知らせ

武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブル演奏会

指揮＝レイ・E. クレマー

トロンボーン独奏＝田中宏史（名古屋フィルハーモニー交響楽団首席奏者）

曲目＝ショスタコーヴィチ：祝典序曲（ハンスパーガー編）、ヴァルチック：交響曲 第4番（世界初演）、スミス：フェスティバル・ヴァリエーション

パーフィールド：レッド・スカイ（日本初演、トロンボーン独奏：田中宏史）、2017年度全日本吹奏楽コンクール課題曲より 他

7月11日 18：30 東京オペラシティ コンサートホール

¥1,500〈全席指定〉

7月15日 18：00 盛岡市民文化ホール 大ホール（岩手県） 一般¥1,500／小中高生¥1,000〈全席自由〉

武蔵野音楽大学管弦楽団演奏会

指揮＝末廣 誠

ピアノ独奏＝渡邊拓也（大学院ヴィルトゥオーソコース2年）[17日]

渡辺愛菜（音楽学部ヴィルトゥオーソ学科2年）[19日]

曲目＝ベートーヴェン：ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 Op.73〈皇帝〉、マーラー：交響曲 第1番 ニ長調〈巨人〉

9月17日 14：00 ハイスタッフホール（観音寺市民会館）大ホール（香川県）

一般¥1,500／学生¥1,000〈全席自由〉

9月19日 19：00 東京芸術劇場 コンサートホール

¥1,500〈全席指定〉

武蔵野音楽大学附属高等学校音楽科 第21回在校生と新卒生によるコンサート

※お問合せ＝武蔵野音楽大学附属高等学校 TEL.04-2932-3063

9月23日 14：00 ブラームホール（江古田）

¥1,000〈全席自由〉

武蔵野音楽大学シンフォニックバンド演奏会（1年）

指揮＝大滝 実

9月26日 18：30 ベートーヴェンホール（江古田）

無料〈全席自由・入場整理券不要〉

武蔵野音楽大学コンサートバンド演奏会（3・4年）

指揮＝佐藤正人

9月27日 18：00 ベートーヴェンホール（江古田）

無料〈全席自由・入場整理券不要〉

武蔵野音楽大学ウィンドオーケストラ演奏会（2年）

指揮＝前田 淳

9月29日 18：00 ベートーヴェンホール（江古田）

無料〈全席自由・入場整理券不要〉

お問合せ ●武蔵野音楽大学演奏部 TEL.03-3992-1120

※やむを得ない事情により、出演者・曲目等を変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※チケットは武蔵野音楽大学ウェブサイト <http://www.musashino-music.ac.jp/> でも予約ができます。

平成29年度 武蔵野音楽大学・武蔵野音楽大学附属高等学校 夏期講習会のお知らせ

講習会名	実施期間	申込受付期間	会場
大学受験講習会	第1期 8月 1日～8月 4日	7月3日～7月18日	江古田 キャンパス
	第2期 8月 5日～8月 8日	7月3日～7月24日	
	第3期 8月28日～8月30日	7月3日～7月31日	
高校音楽科受験講習会	第1期 8月 1日～8月 3日	7月3日～7月18日	
	第2期 8月28日～8月30日	7月3日～7月31日	
社会人のための 夏期研修講座*	7月29日～7月31日	7月3日～7月18日(消印)	
免許法認定講習 教員免許状更新講習とは 異なります。	7月24日～8月4日	7月3日～7月18日(消印)	

※社会人のための夏期研修講座は、下記のⅠ～Ⅳより各1講座を選択します。

Ⅰ ●中学生・高校生のためのピアノ指導法 ●声楽指導法（職業としてのオペラ歌手、教科書の中の名曲 vol.2 - 発声法と歌唱表現法、ヴェルディのオペラ作品にみる人間像とその音楽について） ●編曲法の実践（ピアノ曲、ピアノ伴奏をアンサンブル〈吹奏楽を含む〉に編曲するための基礎知識の習得） ●音楽科指導の実践（新学習指導要領改訂〈平成29年4月〉の趣旨を受けて音楽科指導はどう変わるのか）

Ⅱ ●小学生のためのピアノ指導法 ●器楽合奏（打楽器の基本的な奏法や指導法の研究を通してアンサンブルの楽しさや可能性を追求する） ●ソルフェージュ（①ソルフェージュの目的 ②各種実践〈視奏、視唱、聴音、アナリーゼ、アンサンブル〉 ③実作品を用いたソルフェージュの実践） ●教材研究（オーケストラ版とピアノ版〈独奏もしくは合奏〉の両方がある曲を比較して、音色、ピアノ書法、作曲家〈編曲者〉の意図などを考える）

Ⅲ ●合唱指導 ●カール・オルフの音楽教育 ●個人レッスン（ピアノ、声楽のいずれかを選択）

Ⅳ ●パイプオルガンのたのしみ「オルガン・コラールの世界」 ●メンタルトレーニング入門 ●楽器学入門（ヴァイオリン・ギター・ハーブの歴史）

◎詳細は要項でご確認ください。

◎講習会要項は、本学ウェブサイトからお申し込みいただくか、本学広報室（TEL.03-3992-1125）へお電話にてご請求ください。本学ウェブサイト：<http://www.musashino-music.ac.jp/>

平成30年度 入学試験要項請求について

武蔵野音楽大学の各入学試験要項は、江古田キャンパスで取り扱っています。郵送をご希望の方には無料でお送りいたしますので、本学ウェブサイトの「資料請求フォーム」からご請求ください。お電話でのお申し込みは、氏名、住所、電話番号、および希望される入学試験要項の種別（附属高校、大学1年次、大学3年次編・転入、大学院、別科）をお知らせください。

なお、夏期受験講習会を受講の方には、講習期間中に配付します。

【要項請求先】武蔵野音楽大学 広報室
〒176-8521 東京都練馬区羽沢1-13-1
TEL.03-3992-1125
本学ウェブサイト
<http://www.musashino-music.ac.jp/>

編集 後記

江古田新キャンパスがオープンして、3ヵ月あまり。新しい生活にも徐々に慣れてきた頃ではないでしょうか。1年生はもちろん、2年生以上の皆さんも、新校舎で学べる幸せを胸に、日々研鑽に励みたいものです。そして、卒業生の蛭崎さんの言葉のように、勉強に練習に、この恵まれた環境を十二分に活用してください（編）。

サリュソフォン

ビュッフェ・クランボン社製 パリ 全長100cm

フランスの軍楽隊長サリュスが考案し、パリの楽器製作者ゴトロウが1856年に特許を取得した金属製のダブル・リード楽器である。

19世紀、それまで改良を重ねられてきた木管楽器類が徐々に現在の形を整えていくと、楽器製作者の関心は、それまでの木管楽器群になかった音域をもつ新たな楽器の開発に向けられていった。まずバス・クラリネットなどの中・低音域を補強する楽器が登場し、さらに音量や耐久性を必要とする軍楽隊での演奏のために、リード楽器を金属で作る試みもなされた。サクソフォンやサリュソフォンはその代表例である。

サリュソフォンは、ソプラニーノからコントラバスまでの各音域でファミリーを形成し、高音域のものは直管で、その他は写真のように管が曲げられている。大きな音量を持ち、演奏しやすい運指の楽器として、1867年にはパリの万国博覧会に出品された。しかし、高音域の音色が繊細さに欠けることから、軍楽隊では中・低音域のもののみがしばらく使われ、現在では一部の楽曲でコントラバスだけが使われている。

また、サリュソフォンもサクソフォンと同様にオーケストラで使用されたが、当初からコントラバスの音域に限られた。ラヴェルやデュカスなどの作品にその用例が見られるが、現在はコントラファゴットなどで代用されることが多い。サクソフォンが広く普及したのに対し、サリュソフォンは限定的な使用に



とどまった。ともに後発の楽器として登場しながら、両者は大きく明暗を分けたといえるだろう。

(武蔵野音楽大学楽器博物館所蔵)

❖ 目 次 ❖

世界への発信に向けて	1
中川俊宏	
音楽の万華鏡	5
音楽を考える 寺本まり子	
卒業生インタビュー	6
わたしはバレエピアニスト 蛭崎あゆみ	
江古田新キャンパス探訪①	9
プラームスホール	
MUSASHINO NEWS	11
❖ 新キャンパスを舞台に多彩な調べ	
❖ 大学院にピアノコラボレイティブアーツコース開設	
❖ 様々な行事に活気あふれた学園の春	
❖ 好評のキャンパスレストラン “Intermezzo” に フレンチの鉄人・坂井宏行シェフ来場！	
❖ 武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金 ご寄附をいただいた方々	
❖ 栄冠おめでとう！（コンクール入賞者等）	
❖ 平成29年度 武蔵野音楽大学 オープンキャンパス・学校説明会	
❖ 平成29年度 武蔵野音楽大学同窓会全国総会のお知らせ	
❖ 平成29年度 7月～9月 演奏会のお知らせ	
❖ 平成29年度 武蔵野音楽大学・附属高等学校 夏期講習会のお知らせ	
❖ 平成30年度 入学試験要項請求について	

武蔵野音楽大学大学院

博士前期課程・博士後期課程

武蔵野音楽大学

武蔵野音楽大学別科

武蔵野音楽大学附属高等学校

武蔵野音楽大学第一幼稚園

武蔵野音楽大学第二幼稚園

武蔵野音楽大学武蔵野幼稚園

附属音楽教室 江古田・入間・多摩

❖ 発 行 ❖

学校法人 武蔵野音楽学園

江古田キャンパス ●〒176-8521 東京都練馬区羽沢1丁目13-1
TEL.03-3992-1121 (代表)

入間キャンパス ●〒358-8521 埼玉県入間市中神728
TEL.04-2932-2111 (代表)

バルナソス多摩 ●〒206-0033 東京都多摩市落合5-7-1
TEL.042-389-0711 (代表)

<http://www.musashino-music.ac.jp/>

2017年7月1日発行 通巻第122号